

第4期 阪神北地域ビジョン委員会 活動報告書

平成21年(2009年)3月
発行：阪神北地域ビジョン委員会
編集：阪神北地域ビジョン委員会広報部会
http://web.pref.hyogo.jp/area/n_hanshin/vision.html

ごあいさつ

私たち阪神北4市1町の地域を愛する第4期ビジョン委員は、『私たちの暮らす阪神北地域をもっともっと素敵なまちにするため…』と心をひとつに、4つの行動目標からなるグループ単位の活動をベースと致しまして、夢会議、シンボルプロジェクト、広報活動と多岐に亘り、2年間の活動を展開してまいりました。ここに私たちの叡智と行動力を結集した活動を報告書としてまとめましたので是非ご覧下さい。

ビジョン委員の皆様には、今後、2年間の活動で得た広範囲にわたる人と人との繋がりや画期的な活動の数々を地域活動へと活かし益々ご活躍されますことを祈念いたします。最後に皆様と出会えましたことに心から感謝しております。ありがとうございました。

第4期阪神北地域ビジョン委員会 委員長 住井 一代

目次

- ・委員長あいさつ…………… 1
- ・シンボルプロジェクト…………… 2
- ・活動グループの活動報告… 3～12
- ・地域夢会議……………13
- ・広報活動の記録……………14
- ・専門委員等メッセージ……………15
- ・委員名簿…………… 16

「みんなでつくる活力あふれる潤いの生活空間」をめざして

阪神北地域ビジョン委員会は、兵庫県知事の委嘱を受けた委員により構成され、「自律的な市民の参画と協働により新しい公の領域を築く」ことを基本理念に、ライフスタイル・コミュニティ・都市環境・阪神経済の4分野にわたって11の活動グループと広報部会が県民の立場で地域づくり活動を行っています。

<地域の良さ、地域での人と人とのつながりの応援>

自らが暮らす地域の良さ、地域での人と人とのつながりの大切さを再発見することで地域への愛着を高め、地域課題に主体的に取り組む潜在的な地域活動の担い手を発掘し、地域活動に誘導する「地域見本市」を開催。

1 推進グループ

シンボルプロジェクトグループ

2 目的

- (1) 団塊の世代の方を含めた地域住民が地域コミュニティと接する方法の示唆
- (2) コミュニティーの新たな活力と魅力の発見

3 取り組み内容

地域見本市「地域ってこんなところよ、お父さん！」
～ここから始まる、まちづくり～(H19)
～絆が活かす、地域のつながり～(H20)

平成19年度

開催日 平成19年11月25日

場所 ぷらざこむ1

(宝塚市売布東の町)

内容

①シンポジウム

i) 講演：「難問解決！ご近所の底力～知恵と工夫のまちづくりをめざして～」

講師：堀尾正明氏

(NHK アナウンサー講演時)

ii) パネルディスカッション：「地域ってこんなところよ、お父さん！」

パネリストはいろいろな立場から地域で活躍する2名及び堀尾正明氏とし、コーディネーターを「県立人と自然の博物館」副館長・中瀬勲先生に務めていただき討議内容の集約化に努めた。



②地域見本市

- 阪神北地域の自然・文化・歴史等の魅力紹介（名所、特産物、歴史・文化の紹介）
- 阪神北地域の市民生活の魅力紹介
まちづくり活動、市民生活・人づくり・福祉・環境関連の地域活動、生きがいきり策の紹介

4 趣旨

少子高齢化や価値観の多様化など、社会の成熟化が進む中で、今後とも豊かな地域コミュニティを形成していくためには、地域の一体感や地域への愛着心を醸成し、参画と協働による地域づくりを推進していく必要があります。

阪神北地域の特徴を反映する望ましい地域形成のイメージを設定するとともに、その具体化の特徴となるシンボルプロジェクトを提起し、「阪神市民文化社会ビジョン」の実現を促進していく。

平成20年度

開催日 平成20年11月30日

場所 ソリオホール（宝塚市栄町）



内容

①シンポジウム

) 講演：「サザエさんとまちづくり」

i) 講師：鳥越 皓之氏（早稲田大学教授）

～これからは、大きな流れとして、国ではなくコミュニティが中心となる時代が到来する～

) パネルディスカッション

ii) ファシリテーター

嶋貴 孝弘氏（阪神北地域ビジョン委員）

パネリスト

鳥越 皓之氏（早稲田大学教授）

山本 亮三氏（阪神北県民局長）

内田 勝雄氏（阪神北地域ビジョン委員）

②地域見本市

阪神北地域の自然、歴史、文化等の魅力やまちづくり活動団体等をパネル展示等により紹介。参加団体は総数で44団体に及び、その活動領域は、「まちづくり」「福祉」「歴史・文化」など幅広いものでした。参加団体間での意見交換も活発に行われ、お互いに交流を深めることができました。

〈プログラム1〉 多世代交流でふれあえるまちづくりを進める

1 推進グループ 多世代交流“じばヤング”グループ

2 具体的な目標

すべての世代が交流できる地域づくりとその担い手を育成する。

3 取り組み内容

【多世代交流会】

(1) 実践者の話を聞く会（学生を対象にした下宿の経営者）

平成19年9月19日（三田市総合福祉保健センター）

(2) 若者と語ろう会（大手前大学芳田ゼミの学生との討論会）

平成20年1月17日（大手前大学・いたみ稲野キャンパス）

参加者：学生22名、ビジョン委員ほか14名 計36名

（討論テーマ）

○自分と違う価値観を持つ人とは無理に付き合う必要はない？

○今の社会は競争社会なのだから、「格差」が存在するのは当たり前？

○人目を気にしながら行動する事はあまりない？

（テーマごとの主な若者3様）

○KY（空気が読めない）を嫌い、適度な距離を保ちつつ、時には相手に合わせて付き合っていた。

○現実にある格差の存在は否定できないようだ。

○案外(?)、人目は気になるようだ。



若者と語ろう会



実践者の話を聞く会

(1) 大和団地三世交代福祉まつり「昔の遊びコーナー」への参画

平成20年11月1日（大和団地・牧の台会館 約200名が参加）

テーマ「さあ、おいで！みんなで作って遊ぼうよ。」

(2) 兵庫県ふれあいの祭典“あわじふれあいフェスティバル”への出展

平成20年11月9日（淡路・しづかホール周辺・来場者41,000人）

テーマ「昔の遊びで世代交流」



コマ回しに挑戦中！

4 取り組みの成果

多世代交流やふれあいの実践などの活動を通じて、世代交流の「きっかけづくり」の重要性を認識した。また、昔の遊びなど経験に基づく伝承が、直接的な世代交流につながり、世代間に違いはあっても障害がないことが理解できた。多様で直接的な交流が笑顔を誘い、会話の始まりにつながることを再認識できた。

5 課題と課題解決に向けた取り組み方策

課題としては、「地域づくりなどの協議・策定」への参画が、現状では高齢世代が中心になっていることが挙げられ、解決策としては、次のように考える。

- ① 多様な世代が「地域づくり」に参画しやすい環境をつくること。
- ② ①を実現するために、世代間を超えた地域のつなぎ役に自らがなり、ともに動く仲間を育成すること。

【ふれあい実践活動】



「昔の遊び」をテーマに、太い竹の切り出しなど材料の調達から、ある程度の細工までを準備し、ぼっこり馬、折り紙コマ、コマまわし、竹輪投げを、子ども達や親子連れに楽しんでもらった。

〈プログラム2〉 多世代で楽しくのびのびと子育てしやすい環境をつくる

1 推進グループ ゆったり子育てサポートグループ

2 具体的な目標

- ・就学前の子どもを育てているお父さん・お母さんが、ゆったりと子育てができるような環境づくりをサポートしていく活動。

3 取り組み内容

- ・4市1町で行われている子育て支援サークルの活動を見学する。
- ・子育て講演会を開催する。

4 取り組みの成果

とき	ところ	成果
H19. 9. 3	伊丹市中野北センター さくら子ども広場	親子20名 高齢者サロン10名 サポーター8名 子どもたちは大きな布プールに入ったボールで遊んだり、高齢者サロンの皆さんと一緒にフラダンスを楽しんだ。
H19.11.16	川西パレット すこやか子ども室	16組の親子が参加。遊具で楽しく遊んでいた。相談員は親に寄り添いながら話し合っていた。
H19.11.19	宝塚市東公民館 新米ママのふれあい タイム	親子20組の参加、満1歳までの第1子の子どもと母親が対象。月齢別で3グループに分かれて子育て体操、質疑応答、親同士の交流。
H19.12. 3	伊丹市中野北センター さくら子ども広場	親子23名 高齢者サロン9名 サポーター10名 食育の実習で、芋もち作りの講座を実施、世代交流の場となった。
H20. 2.27	猪名川町子育て支援 センター 「がきん子クラブ」	登録グループ親子10組の参加で赤ちゃん組も一緒に参加。センターのスタッフによる忍者体操、ボランティアの絵本の読み聞かせ。
H20.10.18	宝塚市立男女共同参画 センター	“楽しみましょう 子育てを”を題として元幼稚園長を講師に招き講演と話し合いをもった。 夫婦4組 託児9名 幼児3名 他16名 計36名の参加でした。



5 課題と課題解決に向けた取り組み方策

子育て中の親子が子育て支援の場に積極的に参加し、親同士の輪が広がるような支援が必要と思われる。悩みを共有し、子どもに愛情を注ぎつつ、ゆったりと子育てが楽しめるようサポートしたい。

〈プログラム3〉 ころふれあう ネットワークで 人づくりまちづくり

1 推進グループ めだかグループ

2 具体的な目標

ころふれあえる地域（居場所）づくり
いつでもお喋りできる、ちょっとお願いできる、
そして、老いても楽しめる…そんな居場所づくり



3 取り組み内容

<19年度>

はじめて誕生した「めだかグループ」でした。でも、何をしたらよいのかわからず、
専門委員藤本真里先生に相談して、地域活動の見学・お手伝いをし、
それを他地域の方々にも知ってもらえたら…との思いで活動してきました。

6月 伊丹市 「隣組」 定例集会見学(復興住宅)

8月 宝塚市 「NPO法人スマイルウエイ」 地域行事

伊丹市 「瑞穂小地区子育て支援・ニコニコクラブ」 地域行事

<20年度>

めだかグループが主体となって『感動の出会いをあなたに』を
テーマにネットワークづくりをしました。



地域行事(スイカ割り)



水ロケット

7月 伊丹の有岡小学校にて、
地域の子ども達と保護者、そ
して、自治会の方々と一緒に
水ロケットを作り飛ばしまし
た。

11月 伊丹の有岡小学校
有っ子カーニバルの会場にて、
PTAの方々の協力を頂き「暗
やみの絆」のイベントを開催
しました。



イメージトレーニングで健康に

11月 宝塚の復興住宅にて、
年齢に関係なく気力を高め、
そして、元気になれる方法と
活用法（イメージトレーニ
ング）を体験してもらいました。

暗やみの絆
歩くのもこわい暗やみ！
でも、人と人が助け合える
から暖かい。
そんな楽しい暗やみを子ども
ちに体験してもらいました。

4 取り組みの成果

「楽しかった」「感動した」「人のぬくもりを感じた」そんな声を地域からたくさん聞く事ができ、また、活動を通し、いろいろな人に出会い、ふれあう事ができた事です。それ以上に、めだかのメンバーが「楽しく、仲良く、みんな一緒に！」をモットーに活動できたことが最大の成果です。

5 課題と課題解決に向けた取り組み方策

地域に喜びの輪のネットワークをどのように広げるかが課題であるので、今まで以上にメンバーの一人ひとりの地域に目を向け、足を運び、そして、地域同士のつながりを深め、輪を広げていき、「楽しく、仲良く、みんな一緒に！」のモットーを更に高めたいと思います。



打ち合せ風景♪

〈プログラム4〉 高齢者・障害者が明るく楽しく健やかに幸せに”健幸”づくりを進める

1 推進グループ ♡ 明るく楽しく健康づくりグループ ♡

2 具体的な目標

高齢者・障害者が明るく楽しく健康で過ごせるよう、出前県民演芸団の公演を通して、コミュニティづくりをめざす。



3 取り組み内容

出前県民演芸団〈はじまるよ〜〉の公演を阪神北地域の各地元のボランティアサークルのご協力で下記のとおり実施した。

とき・ところ	参加者	演目
H19.11.29 JA兵庫六甲川西ホール	川西小地区福祉委員会 高齢者ふれあいサロン	マンドリンギター演奏 ・・・「アンサンプル・コパン」
H20.1.14 猪名川町ゆうあいセンター	高齢者デイサービス	南京玉すだれ、皿回しなど ・・・「伊丹大道芸サークル」
H20.3.14 伊丹・有岡センター	高齢者ふれあいサロン	和太鼓演奏・・・「和太鼓みのり」
H20.4.20 伊丹神津福祉センター ときめきホール	老人保健施設 高齢者デイサービス 一般市民	和太鼓演奏・・・「和太鼓みのり」 落語・・・「伊丹家かれる」 唄・新舞踊・・・「ブチトマト」 南京玉すだれ、皿回し・・・「伊丹大道芸サークル」
H20.6.26 社会福祉法人宝塚ちどり	高齢者デイサービス	大正琴演奏・合唱・・・「大正琴あけぼの」 南京玉すだれ・腹話術・歌謡ショー ・・・「ひまわり座」
H20.10.11 三田温泉シルバーステイ	高齢者デイサービス	民謡・唄と踊り・・・「藍野民謡同好会」 腹話術・南京玉すだれ・手品・かっぱれ ・・・「あすなる腹話術サークル “にこここ”」
H21.1.30 猪名川町知的障害者授産施設 希望の家 “すばる”	授産施設作業所 障害者デイサービス	南京玉すだれ・腹話術・歌謡ショー ・・・「ひまわり座」

4 取り組みの成果

高齢者・障害者施設への出前演芸団〈はじまるよ〜〉公演を開催して、参加者の笑顔やぬくもりにふれて、それぞれの地域の方々とのコミュニティづくりが出来た。また地元のボランティアグループにも出演願ひ、施設とのつながりを持って戴いたことが今後のために大きな成果と思う。



5 課題と課題解決に向けた取り組み方策

どの施設を訪問しても公演を終えると大きな拍手で見送って戴き、「また来て下さい」との言葉をかけられ、元気に楽しんでもらうつもりが「またがんばろう」という元気をもらえた。出演頂けるボランティアグループの高齢化などで施設への参加が難しいといった課題もあることから、今後は若年層のボランティアグループやバラエティに富んだ演目の発掘が必要であり、第5期の活躍に期待する。「継続は力なり」です。

〈プログラム5〉 多くの住民参加によりコミュニティを活性化する

1 推進グループ 地域活動のしくみづくりグループ

2 具体的な目標

コミュニティの基本は向こう3軒両隣、この近所同士のつながりがしっかりあれば自ずと地域の活動は円滑に進められます。阪神淡路大震災で大きな力を発揮したのも近所の力でした。現在、各地域で取り組みが進められている『災害時要援護者支援制度』は、近所力（地域力）を問う制度だという観点から、各地域の制度の取り組みを検証して見えてくるものをコミュニティのしくみづくりに提案します。

3 取り組み内容

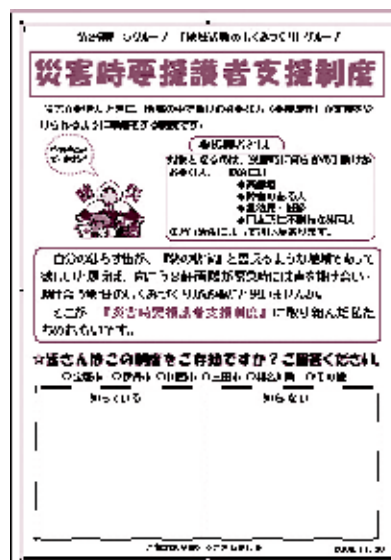
- (1) 毎月第2土曜日に定例会を開催し、メンバーの親交を深めながら意見交換
- (2) メンバーの『災害時要援護者支援制度』の学習として、取り組みが進んでいる川西市の担当課から進捗状況を聴取・・・H20.1.12
- (3) 4市1町の制度への取り組みの現状をメンバー分担で調査
- (4) 川西市多田グリーンハイツ自治会にて制度取組状況を聴取・・・H20.5.3
- (5) 川西市大和自治会にて制度取組状況を聴取・・・H20.6.14
- (6) 川西市身体障害者福祉協会会長の話を聴取・・・H20.8.9
- (7) 地域見本市で制度の認知度に係るアンケート実施・・・H20.11.30
- (8) 専門委員のサポートで、アンケートから見えてくる問題を検証

4 取り組みの成果

『災害時要援護者支援制度』のシステムが作られる過程において、要援護者を支援する支援者を決めるということが行われるのですが、この段階で問われるのが、日常の近所つながりです。昔からそこにずっと皆が暮らし続けている地域に比べ、いわゆる新興住宅地では、要援護者の把握自体が手間取り、支援者を決めることもまだまだ、というのが現状で、向こう3軒両隣のつながりがしっかりと出来ている方が、新しいシステムをつくることも展開することも容易だという実態が見えてきました。



しくみづくりグループメンバー



5 課題と課題解決に向けた取り組み方策

『災害時要援護者支援制度』が構築される過程で、当該制度が住民に認知され浸透していく状況は地域により差があります。援護が必要な方（要援護者）とその方を支援する方（支援者）との連携をうまく図ることが重要で、これなくしては制度は成立しません。そこで大きな力を発揮するのが「近所力（地域力）」です。また制度づくりに欠かせないのも「近所力（地域力）」です。私たちが取り組んだこの制度をどのようにして地域に定着させていくかが今後の課題ですが、各地域の具体的な取り組みを追い続ける中で、その解決方法を探っていきたいと思います。

〈プログラム6〉 水循環の仕組みを知り、水を大切にする

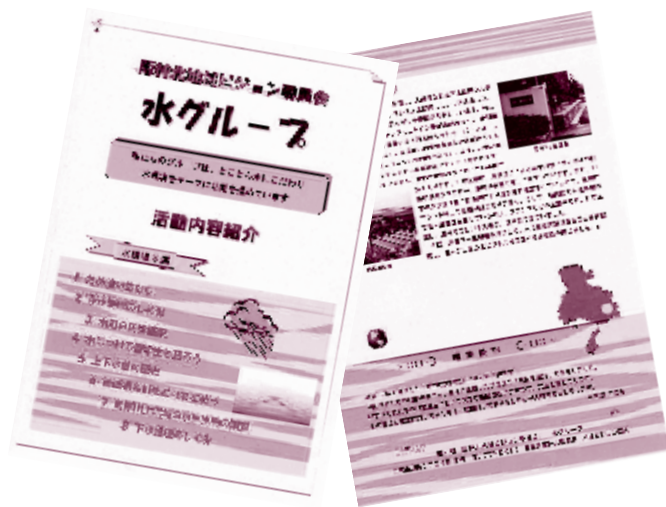
1 推進グループ 水グループ

2 具体的な目標

限りある水資源を大切に、安心して水を利用できる環境の構築と、そのための啓発活動を推進する。

3 取り組み内容

私たちのグループは、会議としての月例会と懇親のための新年会に加えて、具体的な活動として8回の研修会を実施し、毎回楽しく、水環境の知識と理解の向上に取り組んだ。



研修会	実施日	場所	内容	参加者
①県政出前講座	H19.7.6	県民局会議室	ため池のはなし	14名
②施設見学	H19.9.14	阪神水道尼崎浄水場	浄水処理のしくみ	13名
③施設見学	H19.10.26	尼崎港管理事務所	水辺の防災施設	14名
④交流討論	H20.2.15	県民局会議室	水について留学生と語ろう	13名
⑤講義研修	H20.3.7	県民局会議室	上下水道の歴史	13名
⑥交流研修	H20.5.16	県民局会議室	清流猪名川をとりもどそう	10名
⑦バス旅行	H20.8.6	武庫川流域	みんなで考える武庫川の旅	10名
⑧施設見学	H20.9.19	原田下水処理場	下水処理のしくみ	12名

グループのメンバーは13名。みんなで活動に取り組み、県民局から事務局と支援担当責任者の出席、そして留学生などのゲストを迎えて、活発な研修会を開催した。さらに、シンポジウムや地域夢会議などのイベントにも積極的に参画した。

4 取り組みの成果

私たちの研修の成果として、生活に直結した水環境8項目を選定して、『水グループ活動内容紹介』をA4版8ページの小冊子で発行した。私たちグループのほぼ全員が参加して取り組んだ成果である。

5 課題と課題解決に向けた取り組み方策

私たちの取り上げた課題は、いずれも私たちの日常生活において大きな役割を担うものであり、水環境の安全と安心のために、その管理と運営に対して一致協同して取り組むことが大切であると考えている。

〈プログラム7〉 緑を知り、緑を育てる

1 推進グループ 街の緑を守り育て隊グループ

2 具体的な目標

街の緑の中でも生活の場に最も身近で街に潤いを与えている「街路樹」の現状、管理状況、課題、市民の声等を調査・研究してより適正な管理保全、管理への市民参加等について関係者に提言する。

3 取り組み内容

グループ会議 26 回、現地調査 6 回、市町・県の管理担当者からのレクチャー 4 回等を行うとともに、夢会議や市民の声を聞くことが可能なイベントに参加し、最終的な提言を行うための報告書作成等を中心に取り組みを行った。

4 取り組みの成果

一部には適正に管理され市民に潤いを与えている街路樹もあるが、多くの街路樹は放置や強剪定等の状態にあること、それ以前の問題として一本も街路樹の無い幹線道路が新設されていること、さらに街路樹への市民の声には大きな温度差があること、里山管理や花いっぱい運動等のボランティア活動と比べるとまだまだ街路樹管理への市民参加が少ないこと、行政から街路樹の保全・管理に関わる市民への広報活動・啓発活動があまりなされていないと思われること等が明らかになった。

一方、都市計画段階から街路樹等街の緑を計画し整然とした街路を実現し適正な管理をしている街路樹があること、また市民の先頭に立って街路樹・公園の緑を管理保全している自治会、あるいはひょうごアドプト制度を活用し駅前幹線道路の緑地を手入れしている



美しい街路樹の街並みは潤いがあります

ボランティア団体があることを知り、市民による街の緑の管理保全もやる気があれば出来るのではないかと思われた。

5 課題と課題解決に向けた取り組み方策

住民の皆さんが主体となり智恵を出し合うことによって、国も取組みを進めている緑豊かな街路樹による「緑陰道路」づくりを行うことも可能だと思います。

街路樹の効用として、街に潤いをもたらすだけではなく、景観の保全向上、地球温暖化の防止等が期待でき、さらには緑が共有財産と認識されるようになれば、保護育成は順調に進むでしょう。この道のりは、住民の方の色々な意見もあるので課題が山積していると思うのですが、住民の皆さんの郷土を愛する気持ちがあれば解決できると信じています。地域に注ぐ愛が、また隣人への愛があれば様々な困難も乗り越えて、落葉拾いも除草もでき、近隣は次第に美しい環境づくりを競うようになることでしょう。

そのためには、行政の側にも美しい緑豊かな都市創造に向け、高い緑化哲学を持っていただきたいと思います。また、住民が1ヶ月に2時間の街路樹保全のボランティア活動を行えば、緑豊かな美しい街が創造され、誇れる街になるでしょう。



強剪定でまるで電柱のような街路樹

〈プログラム8〉 ゴミの減量・省エネに取り組む

1 推進グループ 「らぼ・こどもと・ゴミ環境」グループ

2 具体的な目標

環境のらぼ（研究）を通じ、ゴミを排出する我々の生活環境（ゴミ環境）が自然と調和する環境共生型社会となる道を探り、私達の子どもの頃の良い環境を、次世代を担う子ども達に贈りたい。このため、ダンボールコンポストによる堆肥づくりを行い、それを利用した作物づくりを体験する機会を通じ、農業の活性化で食糧自給率を高めること、自然環境の保全力が高まることを訴える。また、ゴミの無害化・有効利活用を提案し、実践する。

3 取り組み内容

- (1) 4市1町のゴミ処理の実態についての勉強会等
- (2) ダンボールコンポストによる生ゴミの堆肥化等の出前講座を合計10回実施。
- (3) ダンボールコンポストを通じた農作物づくりによる地産地消・地域ブランドの方向性を検討、田植え・豆植え・芋植え等のイベントや稲刈り・芋掘り・黒豆刈り等の収穫祭の実施

4 取り組みの成果

- ① 4市1町のゴミ処理の実態が良く解り大変意義深い勉強会となった。
- ② 出前講座を通じて生ゴミ減量が、身近に出来ることであるとの理解が得られた、
虫の発生で、一旦ダンボールコンポストをあきらめた方も、虫の対策の要点を再度説明することで、また取り組むきっかけとなった。
- ③ ダンボールコンポストによる農作物栽培を通じてのイベントで、地産地消・地域ブランド実現への第一歩を実感した。



5 課題と課題解決に向けた取り組み方策

今後の課題として若い世代の方・学生の方等との協力も必要であると感じており、地域での呼びかけや他団体との連携等を検討したい。



〈プログラム9〉 地域の環境を考える次代を担う子どもたちを育む

1 推進グループ 「こどもと地域の環境会議」グループ

2 具体的な目標

(1) 将来を担うこども達には、人々が地域の環境の恵みにより生きていることを認識し、自らこれらの問題に取り組む姿勢を身につけることが求められている。

そこで、こども達に地球温暖化を身近な問題として捉え、家庭でも実施可能な行動を通じて環境に配慮したライフスタイルを身につけることができるように環境学習プログラムを提供するとともにその成果等について意見交換の場を設けることにより、地域と一体となった環境づくりを推進する必要がある。

(2) 以上の考え方の下に、当グループでは阪神北県民局環境課との協働によりこどもも含めた地域一体となった環境づくりの一環として、環境に対する学習プログラムに参加するとともに、その成果の発表・意見交換の場である「こどもと地域の環境会議」に積極的に関与する。

具体的には、当会議の第1部である「楽しく学べる環境学習」に主体的に関与し、地域の一体となった環境づくりの一端を担う役割を果たすことを目標に活動を展開してきた。

3 取り組み内容

(1) 平成19年度の取り組み内容

平成19年12月9日に三田市で開催された当該会議において、「楽しく学べる環境学習」として、①郷土芸能の紹介（三田市の上本庄百石踊り）、②「考えてみよう!! 水の大切さ!」、③水にまつわる内容の「阪神北こども環境クイズ」を担当。

こどもと参加者が、「水」を通じて身近な環境問題への取り組みの大切さを学ぶことができた。



参加者：約380名。

(於：三田市まちづくり協働センターにて)

の在り方についての意見交換を実施。

参加者：約350名

(於：猪名川町イナホールにて)



4 取り組みの成果

19年度は、これまで最多の参加者の出席のもと、私たちを取り巻く環境の大切さを「水」を通じて、学習することができ、身近な環境問題について参加者の問題意識を醸成することができた。

20年度については、いま喧伝されている「地球温暖化」に対する正確な知識の醸成と環境学習プログラムへのメンバーの参加により、こどもと同じ条件のもとに、環境学習を行うとともに、その成果の発表・意見交換を通じて、「地球温暖化」防止に向けた各人のライフスタイルの在り方についての問題意識の共有を図ることができた。

5 課題と課題解決に向けた取り組み方策

この2カ年間の活動を通じて得ることができた「水」「地球温暖化」等の身近な環境問題に対する知識を毎日の生活の中で、具体的に実践していくことの大切さを、こどもも大人も含めて一人でも多くの人々に認識してもらえよう。今後も地道な活動を引き続き行っていきたい。

(2) 平成20年度の取り組み内容

今年度の主要テーマである「地球温暖化」について先進的に取り組んでいる企業3社を訪問(5~6月)

「地球温暖化防止」の環境学習プログラムである「いきものみつけ」「阪神北エコライフ大作戦!」にメンバー全員が参加。

平成20年12月21日に猪名川町で開催された当該会議において、昨年同様、「楽しく学べる環境学習」として①郷土芸能の紹介(猪名川源流太鼓)、②「地球温暖化」に関する内容の「阪神北こども環境クイズ」を担当し、クイズを通じて「地球温暖化」について学習することができた。

また、「こどもと大人のエコセッション」と題して、こどもの研究成果を踏まえ、会場の参加者全員による、地球環境に優しいライフスタイル

〈プログラム10〉 地域の自然と文化、史蹟を訪ね、地域交流を進める

1 推進グループ であいたいグループ

2 具体的な目標

「街道・河川」を中心テーマとし、4市1町の自然や歴史、文化遺産、史蹟を探訪し検証する。そして地域の発展につながる冊子等の成果物を作成し、情報発信と地域交流の促進を図る。

3 取り組み内容

- (1) 西国街道を歩く
平成 19 年 7 月 18 日
コース：有岡城跡～伊丹郷町（旧岡田家住宅・酒蔵）～猪名野神社～毘陽寺
- (2) 丹波道を歩く
平成 19 年 9 月 26 日
コース：旧九鬼家住宅資料館～川本幸民顕彰碑～三田城跡～心月院～天満神社
- (3) 猪名川・篠山街道を歩く
平成 19 年 10 月 24 日
コース：猪名川町ふるさと館～天澤寺～屏風岩～東光寺（木喰仏）
- (4) 川西の歴史を歩く
平成 20 年 3 月 19 日
コース：八坂神社～勝福寺古墳～無軌道電車跡～地蔵石仏～満願寺
- (5) 宝塚巡礼街道を歩く
平成 20 年 5 月 28 日
コース：清荒神清澄寺～売布神社～市杵島姫神社～中山寺～松尾神社～天満神社
- (6) ほかに西宮街道、三田巡礼街道、小浜宿、多田銀山を歩き、宝塚の街道について公開講演会を開催、また武庫川・猪名川の勉強会など幅広い活動を実施した。



満願寺(川西市)

4 取り組みの成果

精力的なフィールド活動を重ね、その結果を記録に残すことができた。旧街道、宿場は宅地開発や道路整備のために消滅したり、かろうじて残っている道標も毀損が激しいものが見られた。

5 課題と課題解決に向けた取り組み方策

都市の再開発、居住者の世代交代などに加え、自然も含めた環境の変化が進む前に、行政、地域団体、住民の理解と協力を得て現況を記録し、地域遺産としてその価値を認める運動を起こす。またそれぞれの地域で行政面においても担当領域を越えて地域住民を巻き込んだ活動や児童生徒などが体験参加できる仕組みを誕生させたい。歴史文化を大切にする資料としてであいたいの記録を生かして欲しい。



心月院(三田市)

「阪神北地域夢会議」を開催

企画提案グループ 多世代交流 “じばヤング” グループ
ゆったり子育てサポートグループ

開催日：平成20年9月21日（日）

開催場所：三田市まちづくり協働センター

参加人数：130名

内容：『みんなで創ろう！子どもの笑顔があふれるまち』をテーマに「家庭と子ども」、「地域社会と子ども」、「自然と子ども」、「学校と子ども」の4つの分科会を実施。その後に行われた全体会は熱心な意見交換の場となりました。

企画提案グループ であいたいグループ
「らぼ・こどもと・ゴミ環境」グループ
シンボルプロジェクトグループ

開催日：平成21年2月28日（土）

開催場所：アステ川西

参加人数：120名

内容：兵庫県企画県民部政策担当部長から「新しい地域の構築に向けて」と題して、今後の人口・世帯数の推計や新たな地域の動き等をお話いただくとともに、誰もが住みたいと思える阪神北地域をつくっていくために、「自然・環境」、「歴史」、「生活・文化」、「産業・特産物」の4つの視点から地域の宝物を探り、それらの魅力をどのように高めていくかについて参加者全員で考えました。



「夢じゃーなる」 「活動報告書」 を発行

1 担当グループ 広報部会

2 基本方針

第4期阪神北地域ビジョン委員会広報部会は、阪神北地域ビジョン委員会設置要綱に定められた目的に基づき、ビジョン委員会の存在および活動内容・予定の告知、活動実績報告を、阪神北4市1町在住の県民ならびに関係諸団体等へ広報することを目的に、広報誌『夢じゃーなる』『活動報告書』の企画・編集・発行を行った。

3 取り組み内容

- (1) 第4期阪神北地域ビジョン委員会広報誌『夢じゃーなる』の企画・編集・発行
各号とも2色刷りA4版全8ページ、発行部数6,500部

(主な内容)

- ①Vol.12 第4期ビジョン委員会始動！他 平成19年11月
- ②Vol.13 ビジョン委員会活動グループ座談会 他 平成20年3月
- ③Vol.14 身近な環境を考えよう！！他 平成20年7月
- ④Vol.15 であいたいの足跡 他 平成20年11月
- ⑤Vol.16 ビジョン委員座談会～第5期ビジョン委員会に参画されるあなたへ～ 他 平成21年3月

- (2) 第4期阪神北地域ビジョン委員会活動報告書の企画・編集・発行

4 取り組みの成果

ビジョン委員会のことをあまり知らない県民が目にすることを意識して、ビジョン委員会の存在や各グループの活動をPRすることに努め、一定の成果は得られたと思う。

5 課題と課題解決に向けた取り組み方策

上記広報の目的を達成するために、今後の編集方針や発行頻度と発行部数の適正数、配布方法等については、第5期のみなさんに再度検討いただき、より効果的な広報活動を展開していただきたいと思います。



全体会・企画調整部会等の開催

全体会(平成19年4月、6月、平成20年3月、平成21年3月に開催)

委員全員で集まり、実践活動グループの編成や活動報告、活動の総括等を行いました。

企画調整部会(原則として毎月1回開催)

実践活動グループの代表等が集まり、委員会の運営に係ることや月々の活動報告、シンボルプロジェクトや夢会議の企画等について話し合いました。

ビジョンパートナーとの交流会(毎年3月に開催)

ビジョン委員の任期を終了した後の活動等について考えるためビジョンパートナー(ビジョン委員OBや地域ビジョンの実現に関心を有する県民で構成)と交流会を開催しました。

分野別会議(平成19年5月に2回開催)

同じ行動目標に興味のあるビジョン委員で集まり、実践活動グループ編成に向けた話し合いを行いました。

専門委員講義(平成20年6月、7月、8月、9月の企画調整部会終了後に開催)

ビジョン委員としての活動の幅を広げるため専門委員の先生方に研究分野に係る講義をしていただきました。

専門委員メッセージ

芳田 茂樹先生

大手前大学現代社会学部准教授

地域でのさまざまな交流や支援を進めていくためには、その地域性や世代構成などを素直に受けとめる「受容力」、こころで感じる「共感力」、そしてコミュニティ内での適度な「(心理的)距離感」をどのように『パワー』に変換していくのがポイントで、これには携わるみなさんの日頃の地道な努力が必要不可欠だと思います。

どうぞ、第4期での活動を途切れさせることなく「新たな公」の領域を築くために、ビジョン委員としての活動を今後の地域活動に活かされることを楽しみにしております。



藤本 真里先生

兵庫県立大学自然・環境科学研究所助教

私が担当する第2分野のみなさんがめざした「自立と協働によるあたたかいコミュニティづくり」は、何かあったときのために、あるいは子や孫の世代のために、行動を起こす、仲間を増やすための作業でした。時間のかかる地道な作業ですがこれから重要になることはみなさんが痛切に感じるところです。手間をかけるプロセスそのものがコミュニティづくりともいえるでしょう。そばでみていて、ビジョン委員同士にまさしく“あたたかいコミュニティ”が生まれたことを実感しております。そのコミュニティを刺激として、あるいは情報交換の場として活用して、みなさんの活動が継続することを期待しています。



今井 一郎先生

関西学院大学総合政策学部教授

私がおもに担当した第3分野では「自然との調和」「安全・快適な都市環境」の創造に向けて各チームのメンバーが力を合わせて取り組まれる姿を拝見して感動を覚えました。

2年間にわたり、ビジョン委員の皆さんが積極的に活動をくり広げ、成果を上げてこられたことに敬意を表します。この経験と成果が、豊かな自然が広がる阪神北地域の暮らしに生かされることを楽しみにしています。どうも有難うございました。



滋野 英憲先生

甲子園大学現代経営学部准教授

ビジョン委員の皆様、2年間に渡る活動ご苦労さまでした。文化と教養そしてともに支えあう心豊かな県民生活をリードする志のもと様々な活動を通してご活躍される皆様の姿は、遅しくもあり輝かしくさえ見えました。

ビジョン委員会で培われた人の輪と知見を今後も活かし県民生活を牽引するリーダーとして各地区でのご活躍を祈念しております。本当にご苦労様でした。



局長メッセージ

ビジョン委員の皆さん、2年間の活動、本当にご苦労様でした。阪神北地域の目指す「市民文化社会の創造」に向けた皆さんの取組みは、今後、この地域をますます魅力あるものとしていくことと思います。

他の委員との議論や他団体との交流で、この2年間に得た成果を礎に、皆さんが携わった活動の輪が地域に広がっていくことを祈念しています。これからもともにがんばりましょう。

阪神北県民局長 山本亮三



阪神北地域ビジョン委員名簿

第1分野 多世代交流“じばヤング”グループ

【伊丹市】井福 和子、大路 周宏、津吉 宏江、西田 和子
【宝塚市】酒井 富美子(副代表)
【川西市】多田 文子(広報部会副部長)
八木下 榮一(副委員長)
【三田市】歳内 紀子、藤村 晴彦(代表)
【猪名川町】藤田 幸夫
【神戸市】江本 享世

【三田市】竹下 靖弘(広報部員)

【神戸市】荒井 操

第3分野 街の緑を守り育て隊グループ

【伊丹市】田原 孝平(広報部員)
【宝塚市】森本 敏一
【川西市】森田 勲、吉岡 行廣(副代表)
【三田市】一樹 洋彦(代表)、平野 薫、前田 保和

第1分野 ゆったり子育てサポートグループ

【伊丹市】稲垣 勝代、内堀 克子(副代表)、鈴木 國子
本田 代志子、前田 千恵子
【宝塚市】田岡 八重子(広報部員)、日野 典子
【猪名川町】今北 喜代子(代表)、今北 修太郎

第3分野 らぼ・こどもと・ゴミ環境グループ

【宝塚市】岩城 正巳、深田 勝通(広報部員)
【川西市】波多野 昭治(副代表)
【三田市】谷口 昭広(代表)、林 和夫

第2分野 めだかグループ

【伊丹市】有賀 悦子、上田 悦子
高津 世季子、田辺 春朝、正岡 妙子(広報部員)
【宝塚市】坂野 千鶴子
西山 良孝(代表、企画調整部会副部長)
【三田市】白石 知子(副代表)

第3分野 こどもと地域の環境会議グループ

【伊丹市】杉坂 宏子(広報部員)、寺本 枝美子
【宝塚市】片上 昇一
【三田市】永井 和男(副代表)
【猪名川町】西田 安民(代表)

第2分野 明るく楽しく健康づくりグループ

【伊丹市】川上 充(副代表)、木下 千鶴子、三好 勝男(代表)
【宝塚市】川田 義典、竹谷 輝男
【川西市】馬場 省三
【三田市】岡本 誠五

第4分野 であいたいグループ

【伊丹市】中川 康
【宝塚市】浅野 昂一、伊藤 益義、稲葉 茂穂(広報部員)
大原 愛、神内 重明(代表)、中村 健徳(副代表)
【川西市】大上 悟(広報部員)、中井 裕子
【三田市】井上 義視、山門 喜久雄、山添 卓爾
【猪名川町】伊藤 道子、的場 光男
【西宮市】近藤 峰子

第2分野 地域活動のしくみづくりグループ

【川西市】大村 衣子(広報部会副部長)、尾林 千鶴子
島田 巖夫、土江 丈士、福田 幸彦(代表)

シンボルプロジェクトグループ

【伊丹市】内田 勝雄(代表、企画調整部会副部長)
不破 昌子
【宝塚市】蛸谷 信央(広報部会長)、佐野 智
澤 貞次(広報部会副部長)
島田 康治、嶋貫 孝弘(副代表、副委員長)
波田 剛、村田 勝彦、山田 慎治
【三田市】上坂 一弘
【猪名川町】住井 一代(委員長)、長田 桂子

第3分野 水グループ

【伊丹市】三上 三千郎
【宝塚市】枝松 榮四郎、王見 宣彦(代表)、金輪 剛
前田 日佐子、吉田 あい子、若月 令子(副代表)
【川西市】田村 幹夫、團野 隆、樋口 亘宏
増田 寿男(副代表)

アドバイザー・専門委員・オブザーバー名簿

【アドバイザー】小西 康生(神戸山手大学学長)
中瀬 勲(兵庫県立大学自然・環境科学研究所教授)
西浦 道雄(三田市農業委員会会長)
中川 勝子(三田市いずみ会会長)

【専門委員】芳田 茂樹(第1分野担当、大手前大学現代社会学部准教授)
藤本 真里(第2分野担当、兵庫県立大学自然・環境科学研究所助教)
今井 一郎(第3分野担当、関西学院大学総合政策学部教授)
滋野 英憲(第4分野担当、甲子園大学現代経営学部准教授)

【オブザーバー】[伊丹市総合政策部政策室] 二宮 叔枝
[宝塚市企画財務部政策室企画調整課] 樋之内 登志(平成19年度)
[宝塚市企画財務部政策室] 坂井 貞之(平成20年度)
[川西市企画財政部政策推進室政策課] 大屋敷 信彦
[三田市企画財政部政策室企画調整課] 浮田 恵
[猪名川町総務部企画財政課] 土井 裕

問い合わせ先

兵庫県 阪神北県民局 地域ビジョン課

〒665-8567 宝塚市旭町2-4-15 TEL 0797-83-3119 FAX 0797-86-4379